

## 再発見 「グラウンドに寝るな」という叫び

グラウンドに寝ることは、非常に情け無いことであり、そして見苦しいことです。それを平気でやっているのは本当に残念なことです。そのことがラグビーの面白さを削減してしまっていることに気付かないのは本当に情け無いことです。

一旦獲得したボールは、全員協力して展開し続けてこそ面白いのです。そのために全員よく考え発想を生かして走りまわらねばなりません。ボールを持って簡単に捕まり、捕まれば簡単に倒れてしまつては、全力を出したとは言えません。相手が必死でタックルしますから、倒されてしまうことがあるでしょう。それを指して「寝る」と言っているのではもちろんありません。捕まる過程と捕まってからの行動が問題です。

防御を突破するのに突進力・走る速さだけでは果たせません。キャッチングの位置と突破のイメージング imaging が成功の要素です。良い位置から突破のスタートを切らなくてはなりません。位置が良くなければパスした他の位置にいる味方に任せるか、突進力をセーブして、味方がサポートしやすい位置へ方向転換して、力を貯めて相手に当り、改めてモールまたはラックから攻撃を組み立てることで、Go Forward はただ前にいけば良いというものではありません。状況を読み取った良い位置でボールを持って、良い位置から突破した結果のイメージが、スペースでの突破力の源となります。後は突破力の集中だけです。

課題である地上に寝ないことについて関連条項を追って検証しましょう。

### 第 15 条タックル

地上に倒れると寝るとは違います。寝るというのは、地上に倒れて何もしない場合を指すのです。

#### 定義

**ボールキャリアーを捕まえていても地面に倒れなければ「タックラー」ではない。**

タックル成立していないのだから全く自由何でもできるのに、勢いのままに無策に倒れて、即立ち上がり走り続ける意識の欠けたプレーヤーを見かけます。両膝から下をガッチリと抱えられたナイスタックルに対しては仕方ないとしても、そうでない限り捕まっても立ってしようと尽力すれば簡単に倒されるものではありません。

#### 15.2 タックルが発生しない場合

**ボールキャリアーが相手側プレーヤーのひとりによって捕らえられ、味方のプレーヤーがそのボールキャリアーにバインドする場合、モールが形成されたことになり、タックルが発生したとはみなさない。**

2人で組んで相手に当たっていくのは反則ですが、捕まえている相手1人に、2人で組んで当たっていくのは有効です。ラインアウトでごくまれに見ますがほとんどみられません。それは捕まったらバインドする前に、あっさり自分から倒れてしまっているからです。モールにするという意識がないか、そうすることが良いことだとおもっているからでしょう。味方のサポートが無い場合は仕方ありませんが、近くに味方がいたら、倒れないで持ちこたえて、展開を図るべきです。

試合中タックルされることは当然あることです。地上に「寝る」ことのないようにしなければなりません。以後のことは、タックルされなければ必要のないことだということを繰り返しておきます。

タックルされたプレーヤーは、第 15.2 の(a)～(d)のことを全力でしなければなりません。

ボールを放すだけではいけません。パスする味方を見つけて機会を生かさなければなりません。ボールを腕いっぱい伸ばし、身体から離し置かなければなりません。寝ている（と言われる）ことのないように、間髪を入れずプレーしなければなりません。

## 第16条 ラック

### 定義

ラックとは、双方の一人またはそれ以上のプレーヤーが立ったまま、身体を密着させて、地上にあるボールの周囲に密集するプレーのことをいう。

立ってプレーしなければならないことです。

### 第16.2 および 16.3

立っていなければならないことが列挙されています。試合中の現実にはほど遠いもので、勝つ為にということで勢いにまかせてプレーされています。レフリーは仕方ないことだと認めています。

## 第17条 モール

### 定義

モールは、ボールを持っているプレーヤーが、相手側の1人またはそれ以上のプレーヤーに捕らえられ、ボールキャリアーの味方1人またはそれ以上のプレーヤーがボールキャリアーにバインドしているときに成立する。

立っていなければならないのです。

### 17.2 モールへの参加

(d) モールの中のプレーヤーは、立っていようと努めなければならない。モールの中のボールキャリアーは、地面に倒れてもよいが (may go to ground)、直ちにボールをプレー継続可能な状態にしなければならない。

能動的に倒れるということは、ラックに移行していこうとするものです。あまり見られないプレーですが、ハンドラックと同じです。

## 第14条 地上にあるボールを念のため検証しましょう。

タックルでなく、地上にあるボールに係わるプレーヤーについてということです。

### 定義

この状況は、ボールが地上にあり、ボールを獲得するためにプレーヤーが地面に倒れる状況のことをいう。ただしスクラムあるいはラック直後の場合は含まれない。

またプレーヤーがボールを持って地上に横たわっているがタックルが原因ではない状況のこともさす。

競技は立っているプレーヤーによってプレーされるものである。プレーヤーは倒れることでボールをアンプレイブル (unplayable) にしてはならない。アンプレイブルとは、ボールがいずれのチームもすぐにはプレーできない状態で、プレーを継続できないことをいう。

ボールをアンプレイブルにするプレーヤー、または倒れることによって相手チームを妨害するプレーヤーは競技の目的と精神を否定することであり、罰せられなければならない。タックルされたのではないが、ボールを持ったまま地面に倒れたプレーヤー、もしくは地面に倒れてボールを獲得したプレーヤーはすぐにプレーしなければならない。

タックルに関係なくボールを持って地上に横たわっている場合と、ボールを獲得するために地上に倒れる場合がある。ただし、立ってプレーすることが大前提なので倒れる場合には以下の条件となります。

#### 14.1 地上に横たわっているプレーヤー

地上に横たわっているプレーヤーは次の3つのうち1つを直ちに行わなければならない。

- ・ ボールを持って立ちあがる、または
- ・ ボールをパスする、または
- ・ ボールを手放す。

この条は、倒れることを肯定するものではありません。直ちに利益が得られた場合に限り、アドバンテージを適用するのです。

第 14.2「地上に横たわっているプレーヤーがしてはならないこと」ではなく、「**地上に横たわっているプレーヤーに係わって他のプレーヤーがしてはならないこと**」です。

これらのことを狡猾に行うことは恥ずかしいことです。

まとめ

地上に寝ることの罪悪について書いてきました。競技規則に厳しく戒めています。しかし、現実には勝つためにという言葉にくるめて、寝ることがベテランの技のように思われています。ラグビーの面白さをスポイルしているということに反省しなければなりません。

2009. 12. 20

西川 義行